

教 科	芸術（書道Ⅰ）	単位数	2単位	学 年	1、2年次
使用教材	「書Ⅰ」 教育図書				
副教材等					

## 1 グラデュエーション及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①本校の特色及び取組を生かした高大接続、教育課程の編成、授業改善により基礎学力の向上を図るとともに、さらなるキャリア教育の実践を推進します。</p> <p>②規律ある学校生活の中で基本的な生活習慣を確立し、時代の変化に対応できる能力の向上を図ります。</p> <p>③生徒一人一人の良さや可能性を伸ばし、自立した社会生活を営むことができる力を育てるとともに、生徒の自己実現を図ります。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>総合学科の本校では多様な科目開設という特徴を生かした教育活動を展開し、「産業社会と人間」を基本として3年間を見通したキャリア教育を充実させます。また、地域と連携した実習や就労体験等、地域の教育資源を活用して教養、人間性及び社会性を育てます。</p> <p>①多様な進路希望に対応する選択科目を設け、資質、能力の育成に相乗的であるように教科等横断的な視点に立った指導であること。</p> <p>②学習の継続性に配慮し、主体的・対話的で深い学びが実践できるような基礎基本を重視した教育課程を編成する。</p> <p>③ICTの活用も含め、生徒個々が自身の進路希望を意識した学習態度の早期醸成と高揚につなげられるものであること。</p> <p>④学校設定科目「キャリア実習」をはじめ、科目の設定にあたり地域産業、地域の人材を生かした授業展開ができること。</p>

## 2 学習目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

## 3 指導の重点

- ・漢字古典の臨書により、毛筆の基本の用筆法や運筆、表現方法を学び実践させる。
- ・臨書で学んだ技法等を元に、意図に基づいた表現で漢字作品が書けるようにする。
- ・漢字仮名交じり書においても、基本用筆等を活かして、漢字と平仮名を中心とした仮名の調和をもって個性的な表現ができるようにする。
- ・臨書や創作の書活動を通して、書に親しみ、表現することの楽しさを体得させる。
- ・観て感じる事の重要性を理解し、書作品としての表現に結び付けられるようにする。

#### 4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。</li> <li>書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。</li> </ul>	書によさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意義や価値を考え、書的美を味わい捉えたりしている。	書の伝統と文化と豊かに関わり、主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。

#### 5 評価方法

評価は次の観点から行います			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>提出課題</li> <li>記録ファイル</li> <li>確認テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>制作プリント</li> <li>作品制作</li> <li>提出課題</li> <li>学習記録</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習記録</li> <li>出席状況</li> <li>制作プリント</li> <li>鑑賞カード</li> </ul>
	内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。評価基準は授業で説明します。		

#### 6 学習計画

月	単元名	授業時数	教材名	学習活動(指導内容)	評価方法
4	書写から書道へ	2	書写から書道へ	中学校までの書写と、書道の違いを理解し、書道学習の内容について確認する。	提出課題 取組の様子
	漢字の書	2	漢字の書	<ul style="list-style-type: none"> <li>書体と書風を理解する。</li> <li>書体の種類と変遷について知る。</li> <li>筆遣いと線質の関係を理解する</li> </ul>	確認テスト 提出課題
5	臨書① 楷書の比較	12	「九成宮醴泉銘」 「孔子廟堂碑」 「自書告身」 「雁塔聖教序」 「牛橛造像記」 「鄭義下碑」	<ul style="list-style-type: none"> <li>代表的な楷書古典を鑑賞し、基本的な点画や線質の表し方と、用筆・運筆の関係を習得する。</li> <li>これらのことを総合し、各古典の特徴を把握し表現する方法を学ぶ。</li> </ul>	学習記録  記録ファイル 確認テスト  提出課題

6	倣書① 楷書の倣書	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した楷書古典を題材として、習得した技法を活かして制作を行う。</li> <li>・互いの作品を鑑賞する。</li> </ul>	<p>制作プリント 倣書課題</p> <p>鑑賞カード 取組の様子</p>	
	課題制作	6	競書大会課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・倣書手本の中から選んで作品制作に繋げる。</li> <li>・納得の行く作品を作る</li> </ul>	<p>提出課題</p> <p>取組の</p>	
	7	臨書② 行書の比較	6	「蘭亭序」 「争坐位文稿」 「風信帖」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行書の代表的古典を鑑賞し書体や書風と用筆・運筆のとの関わりを理解し技法を習得する。</li> <li>・その上で、古典の特徴を活かした表現に活かす。</li> </ul>	<p>学習記録</p> <p>記録ファイル</p> <p>提出課題</p>
					倣書② 行書の倣書	2
		篆刻	3	篆刻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落款の意味について理解する。</li> <li>・篆刻の用具・用材や手順について理解し、制作に活かす。</li> </ul>	<p>課題提出</p> <p>制作プリント</p>
	10	臨書③ 隷書	3	曹全碑	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隷書の代表曹全碑を鑑賞し、隷書の特徴を理解する。</li> <li>・隷書の用筆・運筆・字形の取り方を理解し、表現する。</li> </ul>	<p>学習記録</p> <p>記録ファイル</p> <p>確認テスト</p> <p>課題提出</p>
倣書③ 隷書の倣書		2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した行書古典を題材として、習得した技法を活かして制作を行う。</li> <li>・互いの作品を鑑賞する。</li> </ul>	<p>制作プリント 倣書課題</p> <p>鑑賞カード</p> <p>取組の様子</p>	
漢字仮名交じりの書		16	漢字仮名交じりの書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字と仮名の調和の重要性について理解し、そのための表現を考える。</li> <li>・用筆・運筆の違いによる多様な線質を理解し、表現を工夫する。</li> <li>・文字の大小、字形や配置、書体などを工夫し表現を試みる。</li> <li>・線質や構成の違いによる個性的な表現を味わう。</li> <li>・明確な制作意図をもち、意欲的に表現する。</li> </ul>	<p>制作プリント</p> <p>課題提出</p> <p>作品制作</p> <p>鑑賞カード</p> <p>取組の様子</p>	
11						

12	仮名の書	6	仮名の成立  基本的な筆使い  単体から連綿へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮名の成立過程と種類について関心を持ち、理解する。</li> <li>・仮名の基本的な線質と用筆・運筆との関係を理解し、表現する。</li> <li>・連綿について理解し、その技法を身に付ける。</li> <li>・連綿によって表現される流動美について理解し、表現する</li> </ul>	<p>確認テスト 記録ファイル</p> <p>課題提出</p> <p>学習記録</p>
	臨書④	2	蓬莱切	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典鑑賞により仮名の美を理解し、古典の臨書により仮名の技法を身に付け、表現を工夫する。</li> <li>・仮名の書における変体仮名の効用を理解する。</li> </ul>	<p>学習記録 提出課題</p>
	仮名の構成法	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>・行書きや散らし書きの構成について理解する。</li> </ul>	<p>提出課題</p>
3	仮名の創作	3	散らし書き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な造形原理を理解し、変体仮名と連綿の効果を活かして創造的な表現につなげる。</li> </ul>	<p>制作プリント</p> <p>鑑賞カード 取組の様子</p>

計 70 時間 (50 分授業)

## 7 課題・提出物等

- ・毎時間の学習内容は「学習記録」に記録します。
- ・課題の提出前の途中経過（添削を受けた物等）を記録としてファイルします。
- ・单元ごとに「学習記録」とファイルをもとに「学習のまとめ」として自己評価をします。
- ・課題に応じて作品を提出します。

## 8 担当者からの一言

- ・書道の学習は、先ずよく観て感じる事が大切です。自分の感性にもとづき、対象となる古典や作品に素直な気持ちで向かいましょう。
- ・書を書く上での技法（筆使い）の習得は、古典の臨書によりますが、ただ多く書くのではなく、1枚1枚を丁寧に自分の出来ないところを見極めながら練習しましょう。
- ・作品制作では「自分はどのような表現をしたいのか」をしっかりと持って取り組みましょう。
- ・書道を通して表現することの面白さを感じ、楽しさを知ってもらうことで、今後の生活の中でも、書＝文字に関心を持ってくれることを願っています。